



INDEX

P 1 ー代表挨拶

P 2 ー平成23年度通常総会お知らせ
ゆめっと主催
アウトドアチャレンジ報告

P 3 ー活動交流事業
「青少年団体を
訪ねて」

P 4 ー第5回活動交流
ミーティングを
開催

～東日本大震災で被災された多くの方々、不安のただなかにあるの方々 お一人おひとりに思いを寄せて～

京都青少年ゆめネットワーク代表 神崎清一

ネットワークは繋がることです。情報やノウハウや知識の共有も、繋がることの一つと言えます。インターネットで世界が繋がることも、私たちのネットワークの力を大きく変革させました。また、繋がることは、人と人が出会い、相互に理解しあうこと、そして喜びや感動を共にすることが魅力でもあります。しかし、本当に繋がることは、悲しさ、辛さ、心の痛みを共にすることを伴います。

日ごろ私たちは「言葉ではなく行動であらわしなさい」と訴え、自分自身を戒めます。私たちは自分自身が、災害や重い病にかかったり、心に大きな傷を負うなどした時に、初めてこれまでの自分の行いが「言葉だけ」であったことに気づき恥じるのが往々にしてあります。これこそが人間のもつ弱さであると思います。

さて、新年のご挨拶の中で、何故「ゆめっと」を始めとしたボランティア活動にかかわろうとするのかということに「私は『自分自身が少しでも優しさをもった人間になりたいから、そして社会の一人ひとりが他者や自分自身にもっと優しくなってほしいから』と答えます。」とさせていただきます。

そして、未曾有の、人智を超えた・・・言葉につまる災害がおこってしまいました。

一人の人として、東日本大震災で被災された多くの方々、不安のただなかにあるの方々お一人おひとりに思いを寄せて、痛みや悲しみを感じると、皆さんと同様に、いてもたってもいられない気持ちになってしまいます。

繋がることで、痛みや悲しみを共に感じて、相互に助け合う関係で、私の好きな日本語に「お互い様」という言葉があります。英語では「ありがとう」に返す言葉「MY PLEASURE: 私の喜び」があります。このような関係で支えあうことが大切ではないでしょうか。そして、共に力を合わせることで「希望」を創りだし、その希望を大きく確実なものにできればと思います。

今、私たちにできることを一人ひとりが、そして団体やグループでできることをそれぞれの方法や時機に、長い期間にわたって思いを寄せることが求められています。